

4 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の分析結果

(1) 基本的な生活習慣

(1)「朝食を毎日食べていますか」、(2)(3)の就寝・起床時間については、過去3年同様、全体的には小中学生ともに好ましい状況にあると思われる。平成22年度と数値を比較すると、小・中学校とも上回っている。全国平均は、小中学校とも、すべての割合が上昇している。

本市の小中学生は、基本的な食習慣や規則正しい睡眠などの基本的な生活習慣が全国よりも定着していることが、今年度も確認することができた。

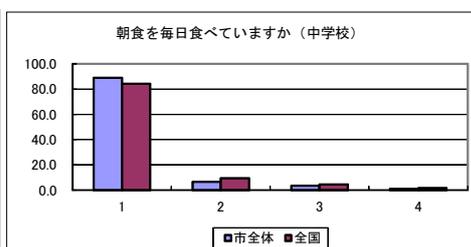
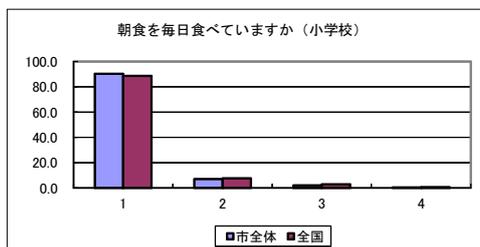
起床時刻に比べると就寝時刻が安定していないことが課題として挙げられる。特に小学生の就寝時刻については、今年度全国平均をやや下回っている。

今後も安定した生活リズムの大切さを児童生徒に指導し、家庭にも啓発を行い、より規則正しい生活習慣を継続させていくことが必要であると考えます。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	97.3	96.3	95.6	93.8
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	78.2	78.9	81.2	74.3
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.2	90.9	94.9	91.3

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(1) 朝食を毎日食べていますか

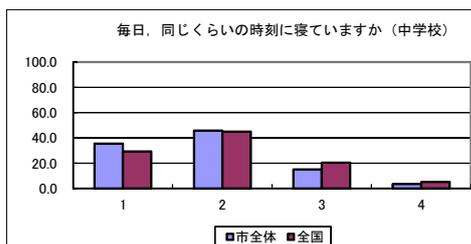
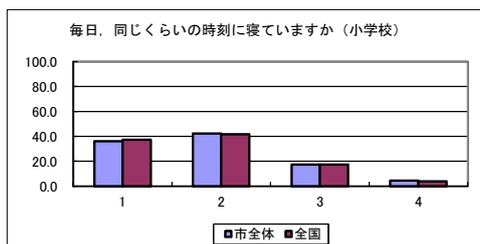


＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない



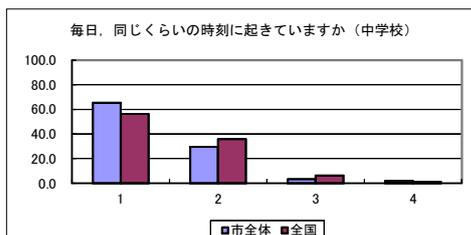
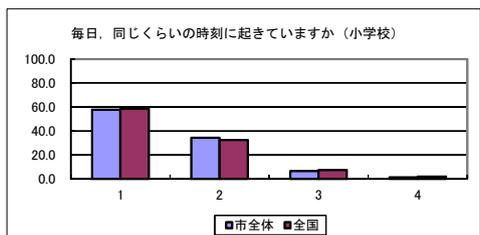
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない



(2) 学習時間等

〈家庭学習の時間について〉

「平日勉強をしている時間」「学校が休みの日に勉強をしている時間」は、小学生では、1時間以上が平日約74%、休日約31%、中学生では、平日約81%、休日約58%という状況であった。今年度の数値は、平成22年度より大きく上回り、前回同様、全国平均を上回っている。学校の宿題や予復習もあるが、「学習塾に通っている割合」が、小中学生とも全国平均を上回っていることとの関連もあると考えられる。

〈授業の予復習等について〉

「授業の復習をしていますか」「授業の予習をしていますか」は、「している」「どちらかといえば、している」の合計は、小中ともに全国平均を上回っていた。特に、小中学校とも復習の時間が、全国平均を大きく上回っていた。

今年度も、本市の小中学生の学習時間は確保されており、家庭での学習の習慣化が図られていることがわかる。各質問の数値も、平成22年度より今年度の方が上回っている。

小学校では復習、中学校は復習とともに予習の習慣が、学力定着のために必要であることが今年度も確認できた。

今後も、「家庭での勉強時間」「授業の復習」について、「30分より少ない(平日)」「あまりしていない」と答えた小中学生の割合を少なくしていくことが、課題であると考えられる。

① 〈家庭学習の時間について〉

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
I (15) II (13) III (23)	学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾や家庭教師含む) ※1時間以上の合計	74.2	63.2	80.8	68.6
I (16) II (14) III (24)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾や家庭教師含む) ※1時間以上の合計	31.0	25.2	57.5	40.6
I (17) II (15) III (25)	学習塾(家庭教師含む)で勉強をしていますか ※学習塾に通っている	51.3	49.7	62.2	60.3

※数値は、1時間以上の合計

I (15) II (13) III (23)

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

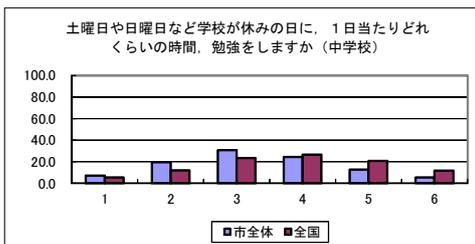
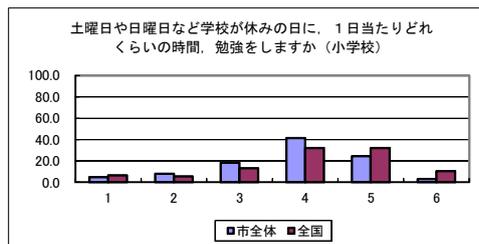


〈選択肢項目〉

- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしていない

I (16) II (14) III (24)

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



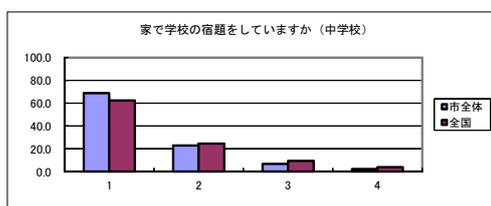
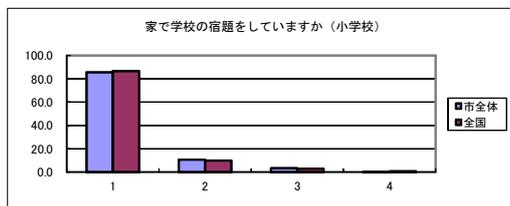
- 〈選択肢項目〉
- 1 4時間以上
 - 2 3時間以上、4時間より少ない
 - 3 2時間以上、3時間より少ない
 - 4 1時間以上、2時間より少ない
 - 5 1時間より少ない
 - 6 全くしていない

② 〈授業の予復習等について〉

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
I (30) II (25) III (35)	家で学校の宿題をしていますか	96.2	96.4	91.4	86.8
I (31) II (26) III (36)	家で学校の授業の予習をしていますか	45.8	41.3	35.5	33.5
I (32) II (27) III (37)	家で学校の授業の復習をしていますか	58.8	51.4	66.9	48.6

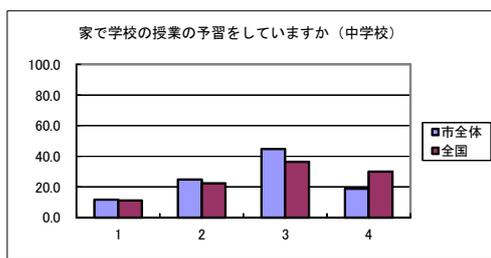
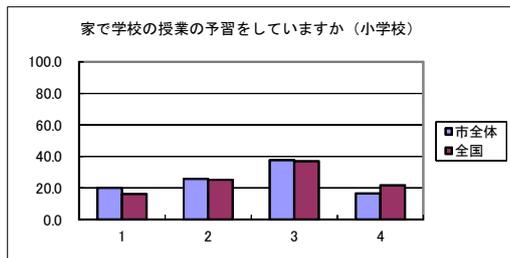
※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

I (30) II (25) III (35) 家で学校の宿題をしていますか



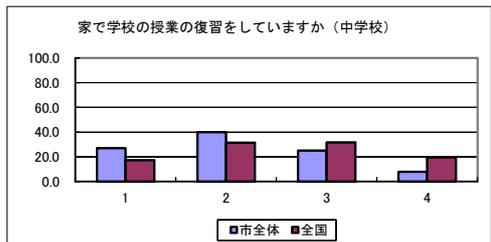
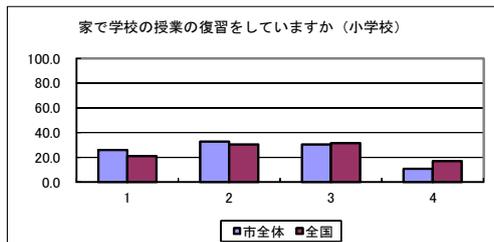
- 〈選択肢項目〉
- 1 している
 - 2 どちらかといえば、している
 - 3 あまりしていない
 - 4 全くしていない

I (31) II (26) III (36) 家で学校の授業の予習をしていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 している
 - 2 どちらかといえば、している
 - 3 あまりしていない
 - 4 全くしていない

I (32) II (27) III (37) 家で学校の授業の復習をしていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 している
 - 2 どちらかといえば、している
 - 3 あまりしていない
 - 4 全くしていない

(3) 国語・読書，算数・数学について

「国語の勉強は好きですか」は、小学生は全国平均をやや上回り、中学生は全国平均を大きく上回る結果であった。平成22年度よりも小学校は数値が下がっているが、過去3年間同じ傾向が見られた。

「読書は好きですか」は、小中学生ともにほぼ全国平均と同じ傾向であり、過去の市の傾向と比べて数値が低くなっていた。

「算数（数学）の勉強は好きですか」は、小学生は全国平均を上回り、中学生は全国平均をやや上回る結果であった。これも、平成22年以前の過去3年間と同じ傾向が見られた。

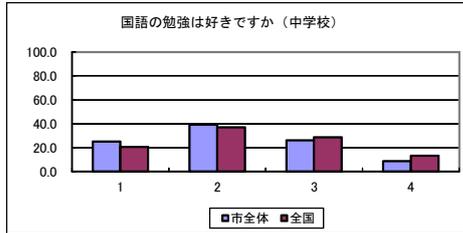
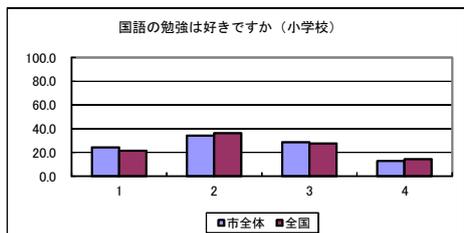
本市の小中学生は、国語，算数（数学）が好きな子ども達が多いことが分かった。全体的には今年度の本市の児童生徒は、小学生は国語より算数の方が好きで、中学生は国語・数学はほぼ同じ程度の割合で好きであることが分かる。国語，算数・数学の理解は、ほぼ同じ程度と捉えていることが分かる。

読書が好きであることは、過去3年間同じ結果が見られてきたが、今年度数値が下がっており、今年度の課題となった。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
I (53)	国語の勉強は好きですか	58.5	57.9	64.3	57.7
II (52)					
III (62)					
I (54)	国語の勉強は大切だと思いますか	94.0	91.0	92.0	88.4
II (53)					
III (63)					
I (55)	国語の授業の内容はよく分かりますか	78.9	79.9	77.3	73.9
II (54)					
III (64)					
I (56)	読書は好きですか	72.6	72.1	69.9	70.1
II (55)					
III (65)					
I (73)	算数・数学の勉強は好きですか	72.6	66.2	58.7	55.5
II (62)					
III (72)					
I (74)	算数・数学の勉強は大切だと思いますか	93.2	92.1	88.6	80.5
II (63)					
III (73)					
I (75)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	80.8	80.2	76.2	69.5
II (64)					
III (74)					

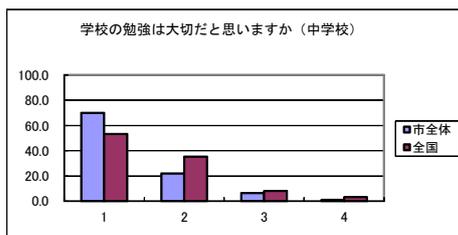
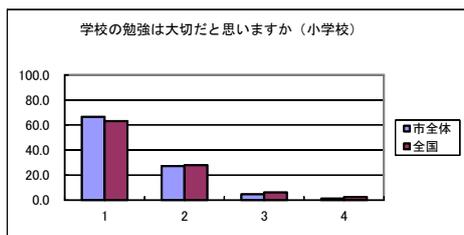
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

I (53) II (52) III (62) 国語の勉強は好きですか



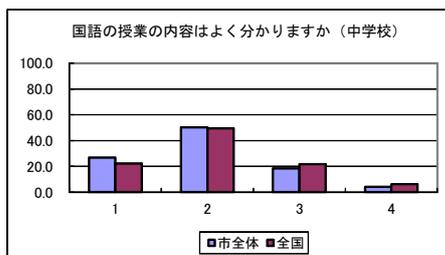
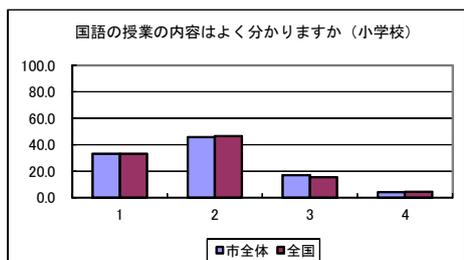
- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (54) II (53) III (63) 国語の勉強は大切だと思いますか



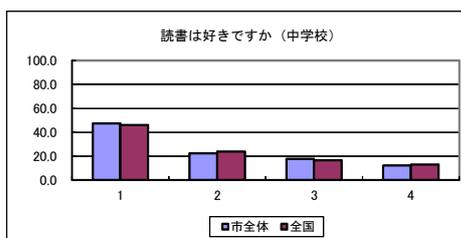
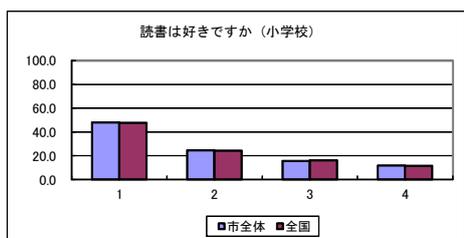
- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (55) II (54) III (64) 国語の授業の内容はよく分かりますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

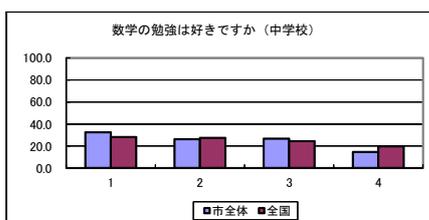
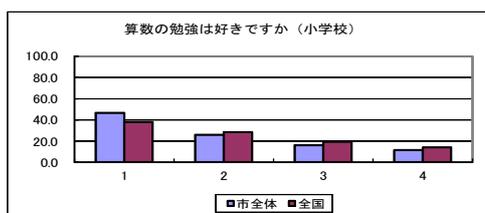
I (56) II (55) III (66) 読書は好きですか



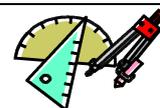
- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない



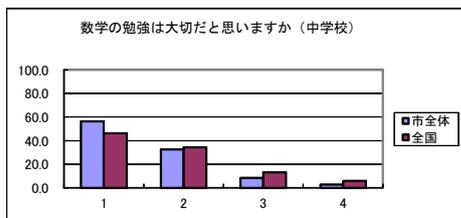
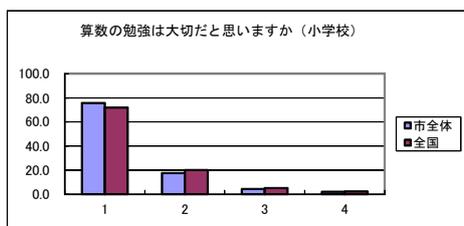
I (73) II (62) III (72) 算数(数学)の勉強は好きですか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

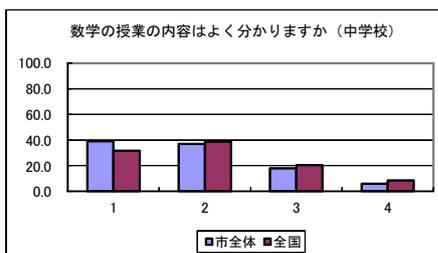
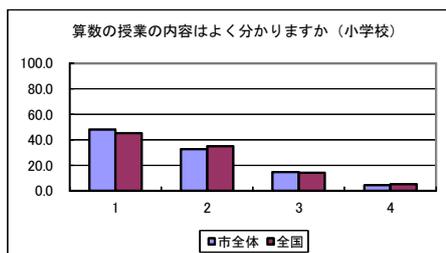


I (74) II (63) III (73) 算数・数学の勉強は大切だと思いますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (75) II (64) III (74) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(4) 学校生活

「学校に行くのは楽しいと思いますか」で、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた小学生は、全国平均と同程度であり、中学生は全国平均を上回っていた。小中学生とも85%程度が、楽しいと感じていることが分かる。

「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」で、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童・生徒は、全国と同程度で9割を示す状況であった。

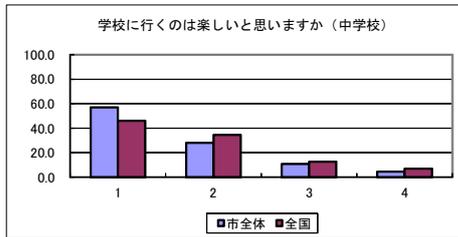
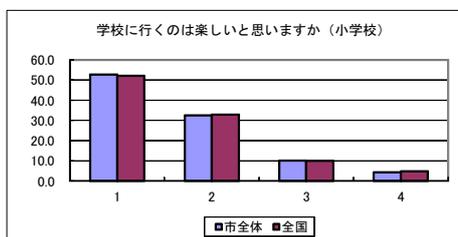
本市の小中学生の学校生活を問う項目は、全国と同程度、またはそれを上回る好ましい状況で、これは過去4年間同じ傾向が見られた。

下野市のほとんどの児童生徒は、友達との関わりがあり、学校生活が楽しいと感じていることが分かった。今後も望ましい人間関係の育成と、学ぶ意欲を喚起する授業の工夫に努めていく必要がある。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
I (35) II (28) III (38)	学校に行くのは楽しいと思いますか	85.3	85.0	84.8	80.5
I (36) II (29) III (39)	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか	94.6	96.0	96.1	93.5

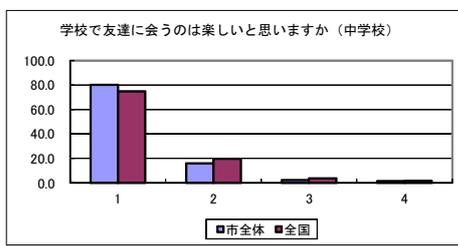
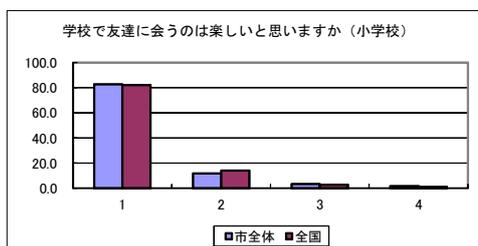
※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

I (35) II (28) III (38) 学校に行くのは楽しいと思いますか



- <選択肢項目>
- 1 そう思う
 - 2 どちらかといえば、そう思う
 - 3 どちらかといえば、そう思わない
 - 4 そう思わない

I (36) II (29) III (39) 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか



- <選択肢項目>
- 1 そう思う
 - 2 どちらかといえば、そう思う
 - 3 どちらかといえば、そう思わない
 - 4 そう思わない

(5) 家庭でのコミュニケーション

「家の人と夕食を一緒に食べていますか」は、小学生がほぼ全国平均と同じ、中学生が全国平均をやや上回る結果であった。

「学校での出来事について話をしますか」は、小学生が全国を下回り、中学生が全国平均を上回る結果であった。

「家の手伝いをしていますか」は、小中学生とも全国平均をやや上回る結果であった。

本市における「家庭でのコミュニケーション」は、今年度も全国と比べて、全体的にはまずまず好ましい状況にあると思われる。

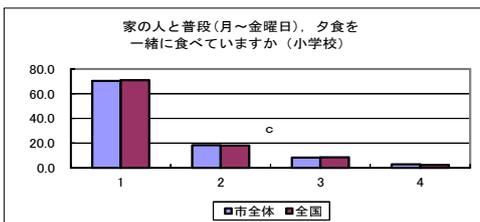
しかし、「家の人と学校での出来事について話をしていますか」について、「あまりしていない」「全くしていない」と答えた小中学生が市全体の3割弱いるという結果は、過去4年間を通しての課題である。

今後は、ファミリエ下野市民運動の「家庭では子どもに話しかけよう！」をさらに推進していく必要性を感じる。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
I (23) II (20) III (30)	家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか	88.8	89.0	84.3	82.8
I (24) II (21) III (31)	家の人と学校での出来事について話をしていますか	74.3	76.5	72.8	66.6
I (25) II (22) III (32)	家の手伝いをしていますか	82.9	80.5	67.6	64.5

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

I (23) II (20) III (30) 家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか

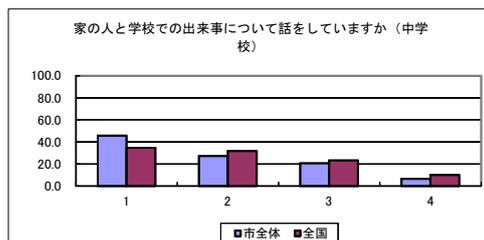
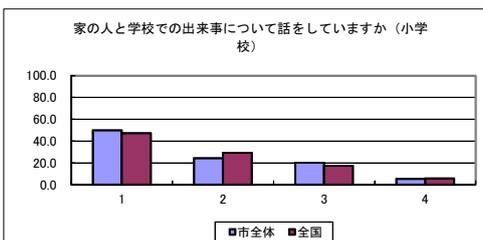


＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

I (24) II (21) III (31) 家の人と学校での出来事について話をしていますか

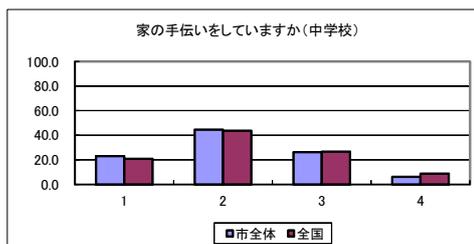
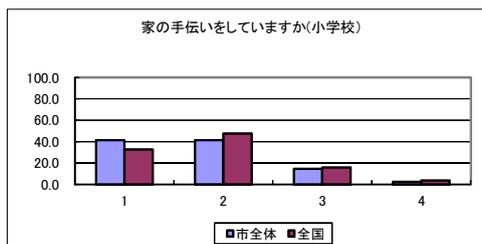
家の人と学校での出来事について話をしていますか



＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

I (25) II (22) III (32) 家の手伝いをしていますか



- <選択肢項目>
- 1 よくしている
 - 2 時々している
 - 3 あまりしていない
 - 4 全くしていない



(6) 自尊意識・将来に関する意識

自尊意識等については、「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標をもっていますか」ともに小学生は全国平均をわずかに下回り、中学生は全国平均を大きく上回っていた。

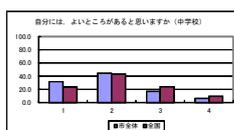
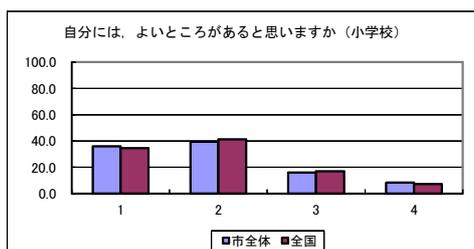
「自分には、よいところがあると思いますか」の質問について、小学生が中学生よりも数値や全国平均との比較で下回ったことについては、注目すべきである。学年集団の特徴であるのか、ここ数年の市の傾向であるのか、今後の調査結果も含めて慎重に検討していきたい。

小学校の段階からよりいっそう一人一人のよさを認める指導や、達成感や充実感のある教育活動に努めることが、今後も重要であると考えられる。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(6)	自分には、よいところがあると思いますか	75.5	75.7	76.8	66.4
I (7)	将来の夢や目標をもっていますか	87.4	87.7	80.4	73.5
II (7)					
III (12)					

※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

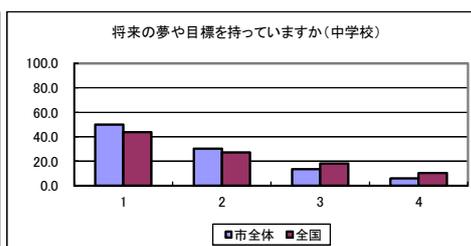
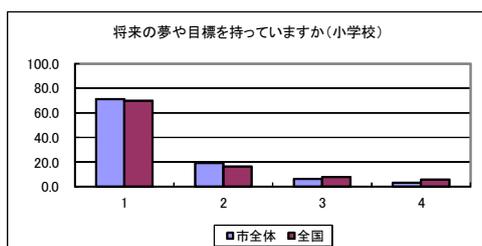
(6) 自分には、よいところがあると思いますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (7) II (7) III (12)

将来の夢や目標をもっていますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(7) 規範意識等

規範意識については、「学校のきまり」「いじめ」の項目で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた小中学生の割合が、今年度初めて小学生において全国平均をわずかに下回っていた。中学生は、どちらの質問も全国平均を上回っていた。平成22年度の市の数値と比較すると、小学生の「いじめ」の質問以外は、どの項目も数値が上昇していた。

過去の4年間（平成19年度～平成22年度）を通して本市の小中学生は、規範意識が高い状況にあると言える。これは、落ち着いた学校生活を送っている大きな要因と考えられる。

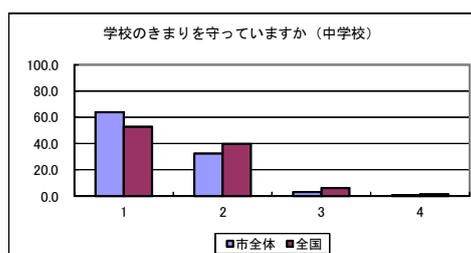
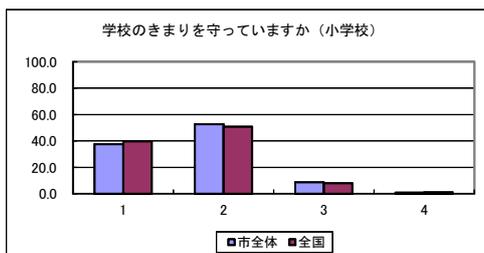
今後はなお一層、特に小学校の低学年の段階から各学年で、道徳教育を中心とした全教育活動において、きまりの意義や必要性についての主体的な理解や、体験に基づいた指導を充実させることが必要である。

いじめについても100%の肯定的な回答を目指して全校体制で指導体制を整え、対応することが必要である。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
I (44) II (41) III (44)小 III (45)中	学校のきまり(規則)を守っていますか	90.5	90.6	96.3	91.5
I (46) II (44) III (47)小 III (48)中	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.4	95.9	96.6	93.5

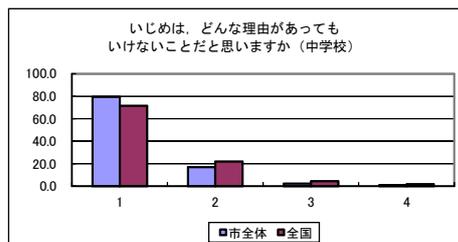
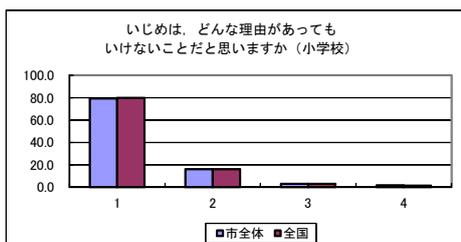
※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

I (44) II (41) III (44) (45) 学校のきまりを守っていますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (46) II (44) III (47) (48) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(8) 地域との関わり・社会に対する興味関心

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」は、参加している小中学生は全国平均を上回っているが、参加していない小中学生も小学生で3割、中学生で6割弱いた。これは平成22年度と同じ傾向であった。

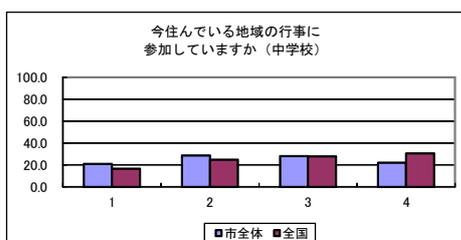
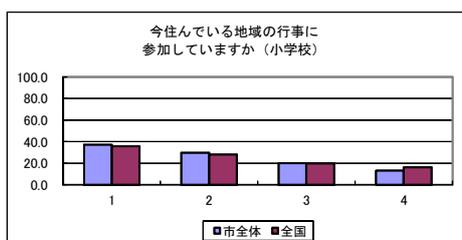
「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」は、今年度新規の質問であったが、小中学生とも全国平均を上回っていた。しかし、地域や社会のために主体的に考え、行動しようとする意識は、小中学生ともに低いと思われる。

本市は、数多くの史跡や田園に恵まれた、歴史や文化、自然の豊かな地域である。過去4年間の調査を見ても、地域についての関心や参加については二極化傾向にあるようである。さらに子ども達が「自分たちの住んでいる下野市」に関心と誇りが持てるように、「ふるさと学習」を推進していくこと、土曜日等に行われる学校・家庭・地域社会が連携した行事や活動に、小・中学生が参加していくことが課題と言える。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
I (37) II (31) III (41)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	66.7	63.9	49.6	41.6
I (38) II (32) III (42)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	63.9	57.4	55.6	51.8
I (39) II (33) III (43)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	40.7	38.6	28.8	26.8

※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

I (37) II (31) III (41) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

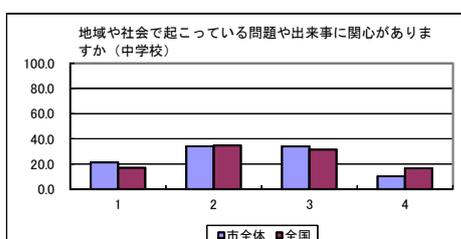
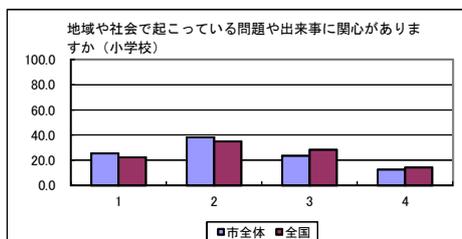


〈選択肢項目〉

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない



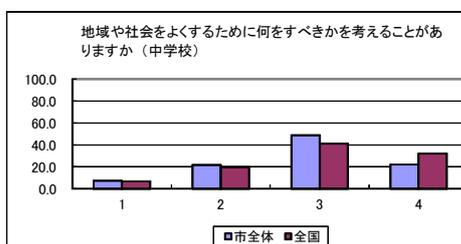
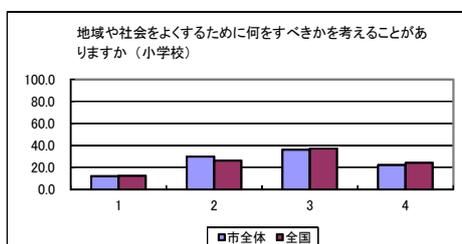
I (38) II (32) III (42) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



〈選択肢項目〉

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

I (39) II (33) III (43) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



〈選択肢項目〉

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(9) 学習状況

「普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか」は、小中学校とも全国平均を上回っていた。特に、中学生は、20ポイント以上全国平均を上回っていた。

「普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」は、小学生は全国平均を下回り、中学生は全国平均を大きく上回っていた。

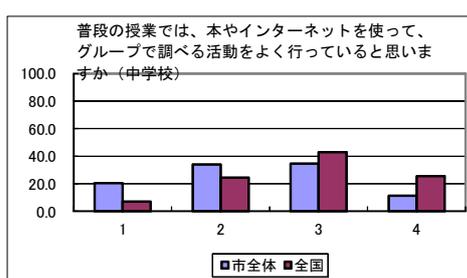
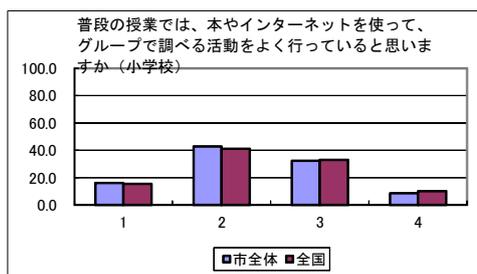
「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」は、小中学校とも全国平均を上回っていた。特に、中学生は、20ポイント以上全国平均を上回っていた。

本市は、図書資料やICT機器を活用した授業は、比較的行われていると見ることができる。自分の考えを発表したり、友達と意見を交換し合ったりする活動も、特に中学校で小学校よりも数値が高く、全国平均の上回りも大きいことから、定着してきていると思われる。今後も特に小学校でこうした学習をより一層の充実させていくことや、小・中学校とも授業のねらいにせまる言語活動の充実を図っていく必要がある。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
I (37) II (31) III (41)	普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか	59.0	56.6	54.2	31.4
I (38) II (32) III (42)	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか	79.3	81.5	85.0	78.2
I (39) II (33) III (43)	普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか	79.8	77.3	92.4	64.7

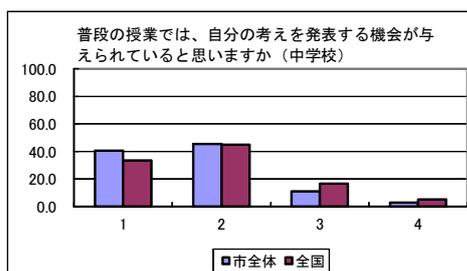
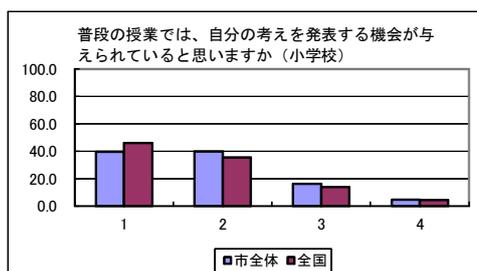
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

I (37) II (31) III (41) 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか



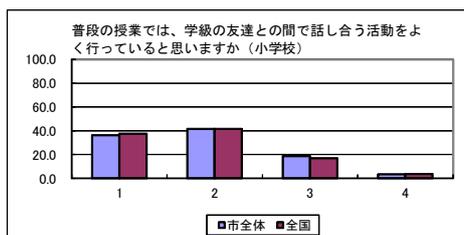
- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (38) II (32) III (42) 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (39) II (33) III (43) 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(10) 達成感・挑戦

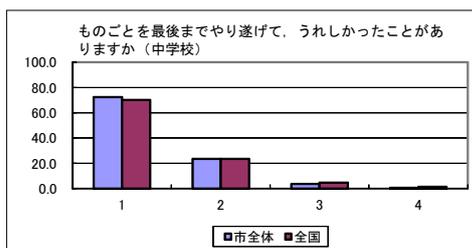
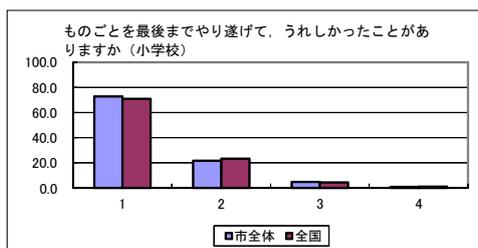
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」ともに、小学生はほぼ全国平均と同じ、中学生はやや全国平均を上回っていた。

今後も、学校の全教育活動の中で、適度な目標設定と挑戦する機会を与え、努力して達成する経験をつませることが重要かと考える。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(4)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	94.4	94.3	95.8	93.7
(5)	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	75.6	75.0	68.8	66.8

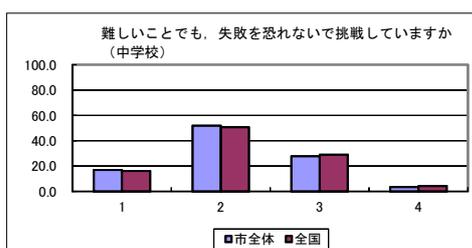
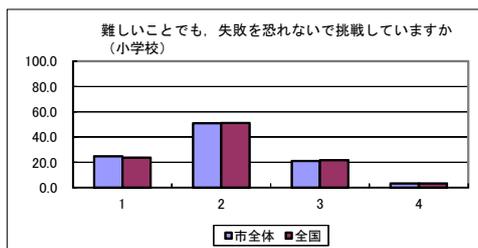
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(5) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(11) その他

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、小中学生共に全国平均を上回っていた。

「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」は、「あまり守っていない」「守っていない、または、約束はない」と回答した割合が、全国平均より下回っていた。「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した割合が、小学生で約60%、中学生で約57%と全国平均よりも高かった。

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」は、小学生が全国平均をやや下回り、中学生が全国平均をやや上回っていた。

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、小学生が全国平均をわずかに上回り、中学生も全国平均をやや上回っていた。

本市の小中学生は、自分で計画を立てて学習する習慣が比較的定着してきていると言える。家庭学習については、今後も学校と家庭が連携して、主体的に学習に取り組む習慣をつける指導を行っていく必要があると考える。

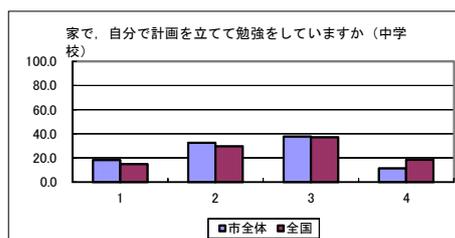
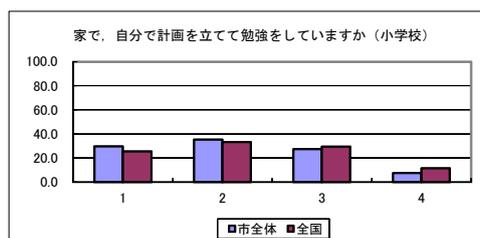
本市の小中学生の携帯電話やスマートフォンの保有率は、全国平均と比較して低い。しかし、今後保有率はますます上がっていくことが予想される。情報モラル教育の系統的な指導を行い、家庭にもより一層協力を呼びかけていく必要がある。

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問は、小中学生とも90%以上が肯定的な回答をしている。今後も道德の時間を中心とした心の教育の充実や、豊かな体験活動を通じた実感をもたせる指導の充実に努めていきたい。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
I (38) II (32) III (42)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	64.9	58.9	50.9	44.5
I (38) II (32) III (42)	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか ※「あまり守っていない」「守っていない、または、約束はない」の合計	4.8	6.2	8.0	16.9
I (38) II (32) III (42)	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	92.1	93.0	95.8	94.2
I (38) II (32) III (42)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.0	93.6	95.9	92.3

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

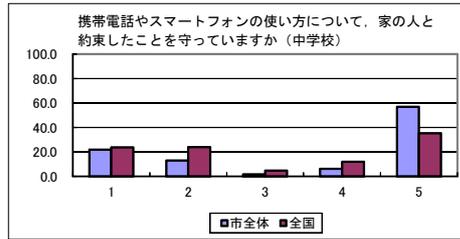
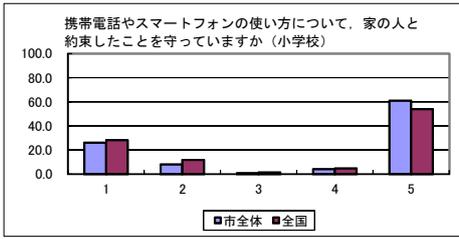
I (38) II (32) III (42) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



＜選択肢項目＞

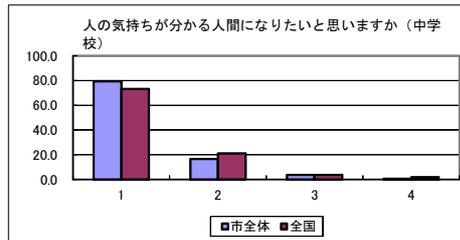
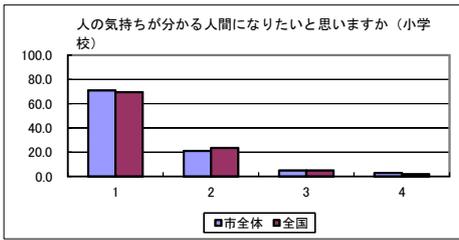
- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

I (38) II (32) III (42) 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



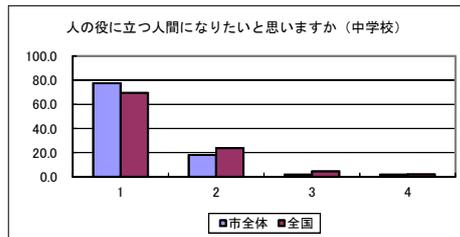
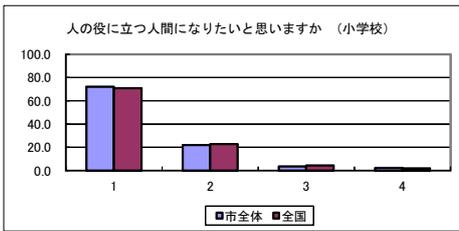
- ＜選択肢項目＞
- 1 きちんと守っている
 - 2 だいたい守っている
 - 3 あまり守っていない
 - 4 守ってない、または約束はない
 - 5 携帯電話やスマートフォンを持っていない

I (38) II (32) III (42) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

I (38) II (32) III (42) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない